

オホーツクの未来を共に創る ～2050年のジブンのために～

開催概要

- ◎日時：令和6年10月24日（木） 13:30～16:00
- ◎会場：北見芸術文化ホール 中ホール（北見市泉町1丁目3-22）
- ◎参加：約350名

◎プログラム

- 第9期北海道総合開発計画の概要説明
- 基調講演

「北海道開発の歩みとこれから」

北見工業大学地域未来デザイン工学科 教授 高橋 清 氏

- パネルディスカッション 「#オホーツクの魅力を語ろう」
「#オホーツクの未来を考えよう」

☆コーディネーター

北見工業大学地域未来デザイン工学科 教授 高橋 清 氏

☆パネリスト（五十音順）

北見工業大学社会連携推進センター

センター長・教授 内島 典子 氏

観光と自転車と 代表／ピポロアイヌ文化協会 会長 河本 真由子 氏

コネクトリップ 会長／流水硝子館 工房長 軍司 昇 氏

一般社団法人ドット道東 代表理事 中西 拓郎 氏



【基調講演】
高橋 清 氏



内島 典子 氏



河本 真由子 氏



軍司 昇 氏



中西 拓郎 氏



学生による地域課題発表



パネルディスカッション

主な発言内容

<基調講演>

- 生産空間を維持するためには、デジタルとリアルの両方が必要。今後さらにデジタル技術を活用するがそれだけでは生活はできない。人流・物流ネットワークや安心安全な社会を考えた時、インフラ整備の必要性は変わらない。
- 地元に戻りたい人は何を求めて戻りたいと思っているのかを考えることが地域づくりのきっかけで、その地域の魅力や価値を考えるスタートになると思う。

<パネルディスカッション>

（学生による地域課題発表）

- LES調査 -Long Established Store（老舗）-
- 常呂川調査とビオトープ（生物の生息空間）の整備活動
- オホーツク地域の将来交通ビジョン～AIの想像に抗うために～
- 地域のこと本当に知っていますか？-持続的な発展に向けた基盤構築-（パネリストから）
- オホーツク地域には唯一無二の自然が非常に多い。ここは環境への高い意識を持ち、環境に関する取り組みを進めることができる先進地域だと感じている。
- 観光は環境保全・脱炭素社会にあらがうような部分もあると感じているが、AIだったり、デマンドバスの自動運転化などが進めば、観光が環境に与える負荷が減っていくと思う。
- ガイドは、アクティビティが好きで地域のことを紹介したくて行っているが、お客様の反応でその場所が本当に魅力的だということに気付かされる。それにより、地元のことがより好きになっている。
- 地元に住み続けるために、どうすれば楽しく豊かに暮らしていけるのか。課題である距離感をどのように埋め、その節点をどう持って行くのが重要。
- 地域にある情報を理解し受けとめる環境を作ること、その情報が「生き」、そして地域の価値を高めることになる。
- 美幌町の植樹活動は、小学校という教育機関を通して、森林保全団体、役場、博物館、企業等全員が良い循環を作っている持続性のある活動になっている。
- インターネット上の繋がりと、すぐに会うことができる地元の仲間の両方をうまく持ちながら生活できる場所としてオホーツクはとても良い。地元の人と関わって、最終的にはここに定着したいと思ってもらえれば。
- 定住には仕事と暮らしの二つが大切で、働き方の多様化や、隣の町と連携しながら、暮らしの楽しさや仲間を担保できれば。